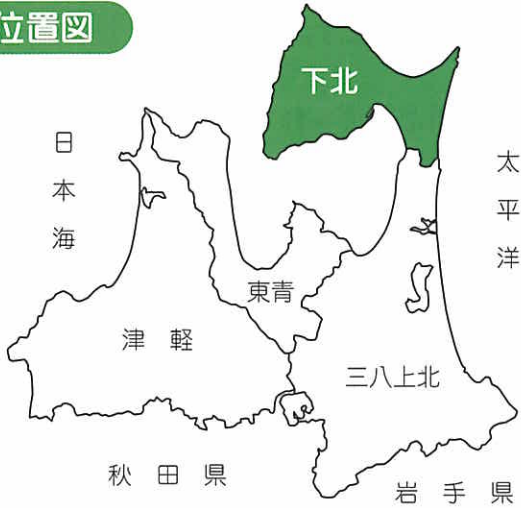




# 第5章 流域別施策の基本方向

## 3 下北流域

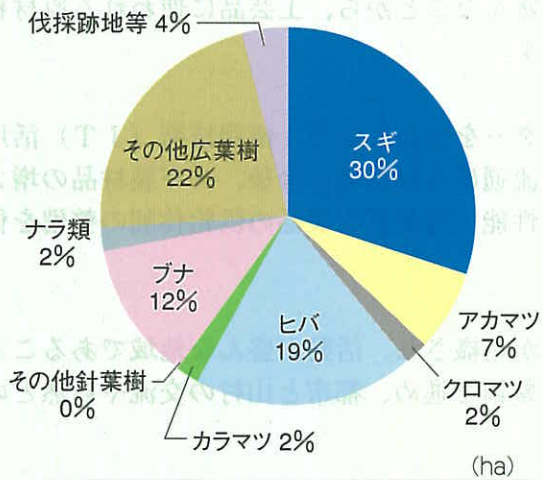
位置図



(ha)

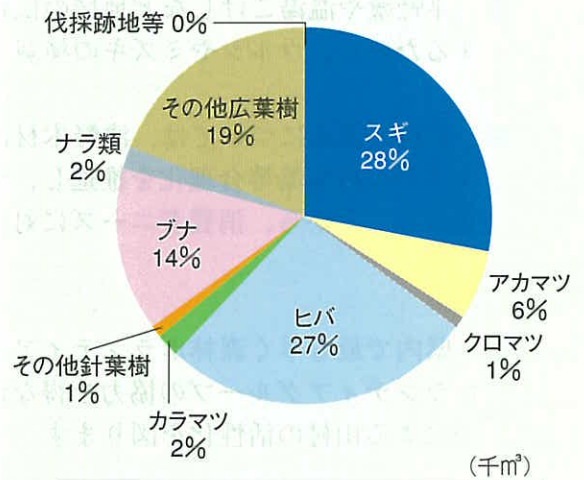
項目	数値
総面積	141,457
森林面積	119,309
森林率	84.3%
国有林面積 (率)	87,504 73.3%
民有林面積 (率)	31,804 26.7%
人工林面積 (率)	47,181 39.5%

樹種別森林面積



樹種	面積
スギ	37,021
アカマツ	7,902
クロマツ	2,100
ヒバ	22,081
カラマツ	2,206
その他針葉樹	541
ブナ	14,405
ナラ類	2,478
その他広葉樹	25,926
伐採跡地等	4,648
合計	119,309

樹種別森林蓄積



樹種	面積
スギ	5,802
アカマツ	1,145
クロマツ	299
ヒバ	5,578
カラマツ	321
その他針葉樹	114
ブナ	2,744
ナラ類	306
その他広葉樹	3,859
伐採跡地等	1
合計	20,169

- 当流域は、本県のヒバ生産量の約4割が生産されるなど、ヒバが地域林業の柱として重要な地位を占めていますが、近年、資源量が減少しているため、抜き伐りを行った後、ヒバの樹下植栽等による複層林への誘導を進め、資源量の回復に努めます。
- 素材の流通については、下北木材流通センターを中心として、情報技術（IT）活用や直送システムの構築等合理化を推進し、製材品の流通については、今後、スギ製材品の増大が見込まれることから、消費者ニーズに対応した高性能・高品質な製品の供給体制の整備を促進します。
- 下北地域の農林水産物の特産品開発と販売戦略に関する研究を行う「下北ブランド研究開発センター」を活用し、木製品の加工やきのこなどの特産林産物を使った商品開発を積極的に進めます。
- ヒバ資源の有効活用を促進するため、異業種との交流を通じてヒバの持つ抗菌性等の特性を活かした新たな商品開発を支援します。
- 下北半島国定公園を中心とした観光利用が多いことから、グリーン・ツーリズムや産地直売施設の整備などにより雇用の場を創出し、山村の活性化を図ります。
- 当流域では、木質バイオマスへの取組みが芽生えつつあることから、未利用間伐材や製材時の廃材などを暖房や発電等地域エネルギーへ活用するため、木質ペレットの加工やペレットストーブの導入を促進します。
- 間伐材の活用を進めるため、魚礁などの多様な利用について研究します。
- 学術的に貴重な「北限のニホンザル」をはじめ「ニホンカモシカ」、「ニホンツキノワグマ」などの野生生物が生息する自然環境や下北半島国定公園などの優れた自然景観を有した森林を関係機関と連携しながら維持していきます。
- 周囲が海に囲まれ、漁業が重要な産業として位置づけられていることから、海や川の魚介類の生息環境を保全するため、地域の自然環境に適合した多様で持続可能な森林の育成に努めるとともに、必要に応じて「魚つき保安林」の指定を進めていきます。また、「漁民の森」など漁業者等の参加による森林づくりの取組みを推進します。